

いっそう元気！東近江

8月29日（水）に開催した“いっそう元気！東近江”では、これまでみなさんと話し合いをしてきた中から出てきた色々なテーマやアイデアをもとに、①「住民と医療福祉の専門職がつながるプロジェクト」、②「暮らしを豊かにするための外出支援プロジェクト」、③「『農』で活躍プロジェクト」の3つのプロジェクトに分かれ、今年度具体的に進めていく取り組みやスケジュールなどについて協議しました。

その後は、プロジェクトごとに集まる機会を持ち、話し合いを重ねているところです。今回のかわら版では、それぞれのプロジェクトの取り組みの様子もお伝えします。



① 住民と医療・福祉の専門職がつながるプロジェクト

■なぜ、住民と医療・福祉の専門職がつながる必要があるのか…

- 地域で暮らす住民（専門職から見るとサービス利用者）の生活を支えるために必要。
- 住民は身近で気になっている人を専門職につなげたら安心してしまい、離れていってしまう。
- 専門職が地域に関わるとしても、誰とつながり、どこに関わっていけばよいか分からない。（地域の情報を持ちあわせていない。）



■専門職同士がつながれる機会、住民とつながる機会

- 「三方よし」「小三方よし」のように、医療・福祉専門職が集まる機会はある。参加している集まりの様子はわかるが、隣の地区ではどんなことをされているのか、知らないことも多い。
- サロンや喫茶など、人が集う場など、つながるきっかけになる場の情報収集をしてみよう。

■地域に向けて伝えていきたいこと

- 住民の暮らしのベースは地域。医療・福祉サービスは、その人が地域で暮らし続けるために、日々の暮らしの中で、できない部分を補うもの。サービスだけで暮らし全体を支えられるわけではない。
- 身近な地域で「あれ？様子がおかしいな？」ということに気づき、気になることがあれば専門職につないでほしい。

②暮らしを豊かにするための外出支援プロジェクト

- 地域でよく聞く外出支援ニーズ、今ある外出支援活動はどんなものがある？
 - ・墓掃除、おでかけ、夏祭り、趣味のサークル、敬老会などに出かける時にサポートしてもらえれば、そこに参加することがその人の生きがいにもつながり、暮らしが豊かになる。
 - ・移送ボランティア『輪和』による通院送迎、サポートセンター加楽による通院送迎・受診付添、生活支援サポーターグループによる通院・買物送迎などがある。
- こんなことができたらいいな…
 - ・免許返納をされたあと、移動手段に困られる方も多。手段としてはタクシーがあるが、もともとタクシーを利用する文化が根付いていない地域なので、利用してもらいやすいような周知も必要。(タクシー利用と自家用車の維持費比較、走行ルートと運賃のめやすが分かるようなチラシなど)
 - ・タクシー会社との交流や聞き取りができないか。
 - ・民間でされている移動支援の取り組みなど、今、東近江市にある移動に関する資源を整理してみてもどうか。
 - ・移動支援に関わる仲間を増やす取り組みが何かできないか。
 - ・ちょこっとバスを利用したおでかけツアーや図書館への送迎活動。



③「農」で活躍プロジェクト

- 畑づくり・野菜づくりを通して、いつまでも元気にイキキ過ごす
 - ・東近江市では、農業をされている方が多い。畑仕事に行くことで健康が保たれ、介護予防にもつながっているのでは…。
 - ・農業の現場では、担い手不足や耕作放棄地などが課題になっている。高齢になっても、これまで培ってきた農業のスキルを活かした活躍の場ができないか。
 - ・福祉施設でも、利用者の得意なことをプログラムに取り入れ、畑作業や野菜づくりをしているところもある。その人たちがやりがいを持って畑作業に取り組めるしかけができないか。
 - ・図書館で、農業関係の書籍を借りる人がおられ、その多くはシニア層の男性。畑作業を通じてその方たちの仲間づくりや社会性の維持ができるといい。



■おすそわけ野菜市を開催

- ・現在、畑づくりをされている人、これから畑づくりをしてみたい・興味がある人たちがイキキ活躍できる機会づくりを目的に“おすそわけ野菜市”を開催。
- ・地域で農業をされている方をはじめ、デイサービスの利用者と職員の方たちも、自分たちが心を込めて作った野菜を出品され、来場者と顔を合わせ、コミュニケーションをとりながらおすそわけされました。
- ・100人以上の来場者があり、来場された方からも「とても素敵な取り組みだと思うので、今後も続けてほしい」という嬉しい声もいただきました。